

## 第6回 生活・利用に関する検討部会 議事概要

◆日 時：平成21年10月19日（月） 13：30～16：30

◆場 所：石垣港離島ターミナル 第一会議室及び第二会議室

◆参加者：委員15名（内訳：個人1名，団体・法人6名，地方公共団体5名，国3名）

### ◆議 事：

(1) 部会の趣旨確認および第1回～5回部会の概要説明

(2) 海域の利用ルールについて

①エコツーリズム推進法の施行

②県内の環境保全等に関する規制等の事例

③船社と漁業者間のルールについて

④海域利用全般のルールについて

(3) その他

①航路整備の検討状況

### ◆概 要：

(1) 部会の趣旨確認および第1回～5回部会の概要説明

- ・資料3-1のP.4で、石西礁湖で人為的再生をするより保全がよい、という趣旨の意見は言ったが、移植に反対なわけではないので、保全を優先すべきという表現に修正して頂きたい。（鹿熊氏）

(2) 海域の利用ルールについて

①エコツーリズム推進法の施行

②県内の環境保全等に関する規制等の事例

- ・資料3-2-2の慶良間のダイバー規制の新聞記事で、30万以下の罰金とあるが、これがかなり強力なルールである。八重山漁協の保護区では漁業者の自主管理となっており、漁業者は違反すると罰則がある。ダイビング、遊漁者にも協力を求めているが、違反しても漁業者以外には罰則は課せられない。もし推進法を適応すれば、保護区で罰則も入るので、より強い規則となる。強い規則が必要であれば、推進法を検討する必要がある。（鹿熊氏）
- ・エコツーリズム法の指定が石西礁湖に馴染むのかが気になる。産卵場所や産卵期の魚を捕らない等の自主規制でやっているの、そこが優れた観光地・景勝地として指定を受けることができるか？ それがなくとも、適用できるような大きな仕組みが組めればありがたいと思っている。（八重山漁協/上原組合長）
- ・八重山地域の産業は、観光が寄与している。エコツーリズムとエコツアーとの関連、一時的な観光客を含めた保全のあり方を、旅行者と一体となった形の教育を考えていく必要がある。（八重山支庁総務・観光振興課/通事課長）
- ・安全面を含めて、八重山の観光は長く持続していく必要があるの、市町村・県と連携しながら進めていく必要がある。（上勢戸部会長）

### ③船社と漁業者間のルールについて

- ・ 欠席の竹川委員よりコメントをもらっている。竹川委員は新航路の関係で多くの漁業者へインタビューをしているが、新しい航路を作ることに關しては反対が多い。その一番の理由は航路のそばの航路ではない所を船舶が通るため、それが危険であるというものである。新しい航路でも、そこを外れて航行することを懸念している。漁業者を説得するためには、新しい航路を整備する上で、航路の外を通らないようなルールが必要である。(鹿熊氏)
- ・ 燃料高騰を背景に、燃料節約の面から少しでも近道をしたという気持ちはあるが、会社として近道を通る指導はしておらず、なるべく同じ場所を通るように指導をしている。ルール作りの中でそういう話しがあれば、前向きみんなに話して行きたい。(八重山観光フェリー/黒島氏)
- ・ 当社も同じように、決められた航路を外れずに走ることになっている。(石垣島ドリーム観光/島仲専務取締役)
- ・ 航路を外れて走るときに、船長は安全航行をしているつもりでも、気づかないで漁業をやっている側を通っていることがある。見えないから、人はいないだろうということで走っている。いつ事故がおきてもおかしくない状態にある。もう1点、漁業者が新航路の整備に向けて協力していく上で、竹富東・南の狭隘水路で交差・追い越し等をする際、減速する等安全航行に気をつけて欲しい、この辺のルール化が必要である。漁業者も航路を必要としていないわけではないので、特に高速船とのルール化が必要である。(八重山漁協/上原組合長)
- ・ 海人はフーカーでホースを長く取って潜っていて、ホースが見えない場合が多々あるので、決められたルートで航行する、船のすれ違いの時の引き波についても注意するなど、竹富南では激しい往来があるため、安全性について配慮していく必要がある。(上勢戸部会長)
- ・ 資料 3-2-3 の図面について、高速船が近道している所は黒島北の1カ所だけか？(八重山支庁総務・観光振興課/通事課長)
- ・ 竹富の南側でもやっている。満潮時になると走れる部分というのがある。他にもあるが、図面にある黒島沖合の箇所は、特に苦情が多い箇所である。(八重山漁協/上原組合長)
- ・ 海域利用者へどのように指導していくのか、ということとの関連が出てくると思う。安全第一で、ルールを明確に、お互い理解し合うような形で決めていく必要がある。他にも沢山あるのであれば、今まで事故が起きていないのが不思議なくらいだと思うので、ちゃんとしたルールが必要である。(八重山支庁総務・観光振興課/通事課長)
- ・ 航路を外れることが沢山あると言ったが、近道に關連して、航路の狭い場所で、船を避けるために航路を外れる場合もある。基本的には会社の中で航路を設定して、そこを走るように指導している。黒島沖では、北の方は喫水の深い船、南側は浅い船が走っている。(八重山観光フェリー/黒島氏)
- ・ ダイビング船など我々も含めて、満潮時に竹富南では島から 10m くらいの所を走っていることもある。今後ルールに従って走っていくことが大切である。(八重山漁協/上原組合長)
- ・ 調査の結果、近道をしていることが明らかになったのが黒島の沖である。その他にもあるが、必ずしも全てが交通船というわけではない。しかし、全てを対象にするのは難しいので、船会社と漁組でモデルとなるルールを作って、広げて行きたい。(石垣港湾事務所/嶋倉所長)
- ・ 漁業者が困った事例がある。竹富南で悪天候の時シュノーケリングをさせている。漁業者がショートカットする場所に入ってくるので、漁業者も加害者になり得る。シュノーケリングの範

囲も含めてルール化をしていく必要がある。モデルケースでもやれば良いと思う。(八重山漁協/上原組合長)

- ・フーカーのロープの長さが、最大 200m くらいのある場合もある。フーカーが切れると息ができなくなるため、船から 200m くらいの範囲は危険ということになるのではないかと。(鹿熊氏)
- ・潜水中の旗を上げていると、船から 〇m 以上離れなければいけないといったルールがあるが、ダイビング船や遊漁船は無視することがある。(八重山漁協/上原組合長)
- ・ヒヤリハットは前からあるため、安全に対するルール作りは船会社として望んでいることである。これを機会にルール化を進めていきたい。(八重山観光フェリー/黒島氏)

#### ④海域利用全般のルールについて

- ・観光客全般であるが、観光客がいろんなコースで自然環境、海岸などに出ることがあれば、周りのゴミを拾って回収してもらい、ツアー会社に協力してコースに組み込んでもらうということを思いついた。(石垣港湾事務所/嶋倉所長)
- ・利用方法、ルールについて、課題が出てくると思うがみんなの知恵で推進して欲しい。個人的には、船は石油を使っているが電気にできないか。また、船のトイレを処理槽にすることができないか。また、ダイブショップの中で中性浮力を薦めていないショップもあり、自主ルールを作ったりできないか。ガイドは教育者であり、資質向上の仕組みができないか。(石垣自然保護官事務所/田村氏)
- ・竹富島のビジターセンターでは、島のルールを映像で勉強してもらい、入島してもらうということをしている。どのようにしてダイビング業者、遊漁者等に徹底していくかということである。(八重山漁協/上原組合長)
- ・ガイドの資質に関連して、最近では減圧症を起こすガイドが多い。先頭に立つガイド・インストラクターの質が低下している。認識が甘い。さらに、環境については認識不足であると思う。サンゴへダメージを与える行為が頻繁に行われているように思う。ガイドの質の向上を図る必要がある。(ダイブサイトノロ/野口氏)
- ・八重山では最近修学旅行の人気が出てきている。自然に関心を示している。学校の事前の環境教育を徹底させて来ていただきたいと思っている。(石垣市企画部観光課/宇保課長)
- ・船社では、安全面のレクチャーは行っているが、環境面についてもできる取り組みだと思う。(石垣島ドリーム観光/島仲専務取締役)
- ・町民からすると、潮の干満に関係なく、また夜間でも安全な航路の整備をしてほしいという声を聞いてきた。決められた航路を通るのが基本であると思っているが、それを組織で規制できるわけではない。決めたルート、ルールをきちんと守るといった基本的姿勢が必要なのだと思う。(竹富町企画財政課/大城課長)
- ・海岸線を含め環境面では、ボランティアに頼りすぎている。行政もそのことに対してまじめに取り組んで欲しい。定期船についても、早く着くだけでなく、観光のニーズ自体を変えていくような、地域の特質をじっくり見るような、ゆっくりと観光することを考えてもらいたい。漁業では、資源が減少している中で、遊漁は日曜日に市民が自然と触れることができる場所であり、ルールを早いうちに決めていかなければ、遅くなるほどやりにくくなる。早く、協議を何回も持って、認識を深めていければ良いと思う。(東洋工業/深見専務)
- ・今横浜から大型のカタマラン(幅 8m、長さ 50m)が来ているが、航路がすごく分かりにくいと

いうことを言っていた。緑の立標が右にあったり左にあったり、立標と海図が一致していないということもあった。避けないとすれ違えない場所もあったと言っていた。航路のコースを整理することが大事ではないか。(東洋工業/深見専務)

- ・観光、スノーケリングについて、委員の中でも上村さんが白保で良いルールを作っている。憲章も作っている。地元としっかり密着しているし、すごく良い事例があるので、いつか、次回部会でも30分くらい発表してもらったらどうか。(鹿熊氏)

### (3) その他

#### ①航路整備の検討状況

- ・特に意見はないが、これまで関係者で検討されたルート案なので、是非ご理解を頂きたい。(竹富町建設課/野底課長)
- ・既存の航路で浚渫したものと、今回案の掘削土量、また掘削した場合の海中公園への影響はどうか。また、環境省の許認可業務との関わりはどうか。(八重山支庁総務・観光振興課/通事課長)
- ・土量については、当初の短絡ルートよりは減ってくる。しかし、必ずしも減少する場所ばかりではないため、現在整理中である。許認可については、環境省に確認しているが、今のところ直接的な制約にはなっていない。(石垣港湾事務所/嶋倉所長)
- ・具体的な工法等となれば、場合によっては手続きが必要となる場合もあるが、基本的には海中公園地区では無いので、許認可ではなく届け出となる。(石垣自然保護官事務所/田村氏)
- ・シミュレーション等をした場合、今指定されている区域への影響も考えられるのか。(八重山支庁総務・観光振興課/通事課長)
- ・計画が進んでみないと何とも言えないが、基本的には航路の関係なので影響はないと思っている。(石垣自然保護官事務所/田村氏)
- ・海中公園地区とはできる限り位置を離そうとしている。できる限り影響がでないように補助工法を採用していく。(石垣港湾事務所/嶋倉所長)
- ・現況よりも航路が長くなると燃費、料金への影響があるのではないかと。(八重山支庁総務・観光振興課/通事課長)
- ・距離に関係なく料金は上げたいところである。距離の影響はそんなに受けないと思う。(八重山観光フェリー/黒島氏)
- ・各船社は競り合って走っている状況である。燃費を食っているのではないかと、なぜこんなに競り合わなければならないのか、と思っているところである。(八重山支庁総務・観光振興課/通事課長)
- ・共同運航について、何度か意見が出ている。(八重山漁協/上原組合長)
- ・航路標識の整備については、もう少し具体的なものが決まってからということになる。(石垣海上保安部/西村氏)
- ・土砂処分先はどちらになるのか。(石垣市建設部港湾課/吉見課長補佐)
- ・また市と相談しながら検討したい。(石垣港湾事務所/嶋倉所長)

以上